【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】平成16年10月28日(2004.10.28)

【公開番号】特開2001-128092(P2001-128092A)
【公開日】平成13年5月11日(2001.5.11)
【出願番号】特願平11-304137
【国際特許分類第７版】
　Ｈ０４Ｎ　5/76
　Ｈ０４Ｎ　5/91
// Ｈ０４Ｎ　7/32
【ＦＩ】
　Ｈ０４Ｎ　5/76　　Ｂ
　Ｈ０４Ｎ　5/91　　Ｚ
　Ｈ０４Ｎ　7/137　　Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成15年10月16日(2003.10.16)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
入力された画像信号と音声信号とを記録媒体に記録する動画像記録装置において、
上記入力された音声信号のレベルが所定値よりも小さくなった場合に、上記記録媒体に対する画像信号と音声信号の不記録期間において、上記画像信号を再生するために必要なインデックス情報を上記記録媒体に記録することを特徴とする動画像記録装置。
【請求項２】
入力された動画像信号を演算して可変長符号化し、入力された音声信号と共に記録媒体に記録する動画像記録装置において、
上記動画像信号と音声信号とを合成した記録データを一時記憶するための一時記憶手段と、
上記入力された音声信号のレベルの変化を検出する音声変化検出手段と、
上記記録データを、上記記録データのデータレートよりも高いレートで上記記録媒体に記録する記録手段とを備え、
上記音声変化検出手段が上記音声信号のレベルの変化を検出した場合に、上記記録媒体に対する上記記録データの不記録期間において、上記動画像信号を再生するために必要なインデックス情報を上記記録媒体に記録することを特徴とする動画像記録装置。
【請求項３】
上記音声変化検出手段は、上記入力された音声信号のレベルがある一定値より小さいことを検出することを特徴とする請求項２に記載の動画像記録装置。
【請求項４】
上記音声変化検出手段は、上記入力された音声信号のレベルがある一定値より小さい期間が、ある一定時間以上連続したことを検出することを特徴とする請求項２に記載の動画像記録装置。
【請求項５】
上記記録手段は、上記記録媒体に対する上記記録データの記録期間と不記録期間とを交互に繰り返しながら上記記録データを記録することを特徴とする請求項２に記載の動画像記

録装置。
【請求項６】
動画像信号を演算して可変長符号化し、入力された音声信号と共に記録媒体に記録する動画像記録方法において、
上記動画像信号と音声信号とを合成した記録データを一時記憶するための一時記憶処理と、上記入力された音声信号のレベルの変化を検出する音声変化検出処理と、上記記録データを、上記記録データのデータレートよりも高いレートで上記記録媒体に記録する記録処理とを行い、
上記入力された音声信号のレベルの変化を検出した場合に、上記記録媒体に対する記録データの不記録期間において、上記動画像信号を再生するために必要なインデックス情報を上記記録媒体に記録することを特徴とする動画像記録方法。
【請求項７】
上記請求項１～５の何れか１項に記載の各手段としてコンピュータを機能させるためのプログラムを記録したことを特徴とするコンピュータ読み取り可能な記憶媒体。
【請求項８】
上記請求項６に記載の動画像記録方法をコンピュータに実行させるためのプログラムを記録したことを特徴とするコンピュータ読み取り可能な記憶媒体。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００７】
【課題を解決するための手段】
本発明の動画像記録装置は入力された画像信号と音声信号とを記録媒体に記録する動画像記録装置において、上記入力された音声信号のレベルが所定値よりも小さくなった場合に、上記記録媒体に対する画像信号と音声信号の不記録期間において、上記画像信号を再生するために必要なインデックス情報を上記記録媒体に記録することを特徴としている。
また、本発明の他の特徴とするところは、入力された動画像信号を演算して可変長符号化し、入力された音声信号と共に記録媒体に記録する動画像記録装置において、上記動画像信号と音声信号とを合成した記録データを一時記憶するための一時記憶手段と、上記入力された音声信号のレベルの変化を検出する音声変化検出手段と、上記記録データを、上記記録データのデータレートよりも高いレートで上記記録媒体に記録する記録手段とを備え、上記音声変化検出手段が上記音声信号のレベルの変化を検出した場合に、上記記録媒体に対する上記記録データの不記録期間において、上記動画像信号を再生するために必要なインデックス情報を上記記録媒体に記録することを特徴としている。
また、本発明のその他の特徴とするところは、上記音声変化検出手段は、上記入力された音声信号のレベルがある一定値より小さいことを検出することを特徴としている。
また、本発明のその他の特徴とするところは、上記音声変化検出手段は、上記入力された音声信号のレベルがある一定値より小さい期間が、ある一定時間以上連続したことを検出することを特徴としている。
また、本発明のその他の特徴とするところは、上記記録手段は、上記記録媒体に対する上記記録データの記録期間と不記録期間とを交互に繰り返しながら上記記録データを記録することを特徴としている。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００８】

本発明の動画像記録方法は、動画像信号を演算して可変長符号化し、入力された音声信号と共に記録媒体に記録する動画像記録方法において、上記動画像信号と音声信号とを合成した記録データを一時記憶するための一時記憶処理と、上記入力された音声信号のレベルの変化を検出する音声変化検出処理と、上記記録データを、上記記録データのデータレートよりも高いレートで上記記録媒体に記録する記録処理とを行い、上記入力された音声信号のレベルの変化を検出した場合に、上記記録媒体に対する記録データの不記録期間において、上記動画像信号を再生するために必要なインデックス情報を上記記録媒体に記録することを特徴としている。

【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００９】
本発明の記憶媒体は、上記の何れかに記載の各手段としてコンピュータを機能させるためのプログラムを記録したことを特徴としている。
また、本発明の他の特徴とするところは、上記に記載の動画像記録方法をコンピュータに実行させるためのプログラムを記録したことを特徴としている。